



# 東京足立病院報



医療法人財団厚生協会 東京足立病院  
東京都足立区保木間 5 - 23 - 20  
電話 03 - 3883 - 6331 ~ 3

第10号

2012年 8月

編集 東京足立病院

## 巻頭言

平成24年5月21日午前7時31分59秒から約5分間、東京足立病院から世紀の天体ショー「金環日食」が雲の切れ間から見る事ができました。太陽の中心部が月に隠れて指輪のように輝く金環日食がこれほど広範囲に観測されたのは、平安時代以来932年ぶりだそうです。太陽と月がおりなす神秘的ショーが始まったまさにその時、夕暮れに近い暗さに変貌した早朝の空に向かって大きなよめきが沸き起こり、魅了された人々は興奮に包まれました。我が国で次回、金環日食が今回のように広域で観測できるのは、300年後の2312年だそうです。数百年単位の永い永い時間のなかで、この金環日食の5分間に立ち会うことが出来たことは、限りある命の私たちにとりまして、素晴らしい幸運だったと思うと同時に、逆に恒久なる時間軸においては、自分の存在などちっぽけな点でしかないことも意識させられた金環日食でした。



そして金環日食の翌日22日正午、東京スカイツリーがオープンしました。東京タワーの開業が昭和33年（西暦1958年）で、この年は東京足立病院が開院した年でもあります。ですから当院と同じ年齢である東京タワーを凌ぐ新電波塔が稼働したことは、喜びと共に、何か当院の54年間という時間の重さも意識させられました。

私たちは毎年毎年、毎月毎月、毎日毎日、生きていくことで精一杯のため、時の移り変わり、時間の経過になかなか気がつきません。しかし時間は無慈悲に淡々と永遠に向かって経過していくものであり、個人や組織の加齢は避けて通れない宿命であり、だからこそ人間は限りある命の生きざまをその短い人生で考えることが求められ、組織は時間的劣化に対抗して持続的に存続する努力が求められると思います。

このことを組織に限って述べれば、例えば戦後の成長産業であった我が国の電気大手は戦後67年が経過した現在、たいへんな苦境に転落しています。シャープ3760億円、パナソニック7721億円、ソニー4566億円と、日本を代表する家電大手の3社が2012年3月期決算で、そろって過去最大級の最終赤字に沈んでしまい、「電子立国日本」の危機が叫ばれております。優秀な人材にあふれ、企画や研究開発努力にもお金をかけている一流会社でさえ、コスト競争で敗れかつ円高も加わって海外輸出が鈍り、製品の魅力も薄れ、結果として韓国や中国等に世界市場を奪われつつあります。この状況は構造的な経営環境変化のため、一過性ではなく、我が国のデジタル家

電が復活できる可能性は決して明るくはありません。

このように時間の経過に伴う経営環境変化は、組織の存続にとりまして極めて危険なものです。前述したように日々の活動に忙殺されて、時とともに移り変わる外部環境変化に気がつかないことが危険なのです。もしその変化対応が遅れば、今はまだ好調の自動車メーカーでさえ、20年後は各社存続していると限らないのです。

時間の経過と共に起きる経営環境変化は、産業界だけではなく、医療介護福祉の世界でも同様です。我が国高齢社会の到来で、医療介護福祉分野は一律潤うなどと考えるのは正しくありません。むしろ人口減少社会、高齢社会の財政状況から、医療介護福祉に対する効率化要求は激しくなるものと推測されます。制度改革の方向性を精神科医療で申し上げれば、救急・急性期における治療とリハビリテーション、訪問看護のような在宅支援医療、そして児童思春期や認知症急性期のような専門医療だけは今後も評価が存続するでしょうが、療養や維持的リハビリテーションの評価は経時的に引き下げられていくものと考えられます。また患者さんの受診数についても、人口減少や高齢化による他施設への流出から逡減していくものと推測されます。このように医療介護福祉の構造変化が始まり、30年後には東京の精神科病院の数は今から半減しているのではないかと私は見立てております。

このように東京足立病院を中核とした東京足立グループ（TAG）は、今後の医療介護福祉改革と患者減少という経営リスクに負けないために、新しい構造変化に対応した組織の見直しや再編成を実施し、次の時代に適応できる組織に再生しなければならないと私は考えております。

新しい組織に生まれ変わるということは既存組織に痛みを強いるものであり、新たな成長戦略には新しい知識やスキルなどの勉強も必要であり、決して楽なことではありません。我が国を代表する家電メーカーでさえ悪戦苦闘するような組織改革を、私たちTAGもこれから挑戦しなければなりません。患者さんに高品質のサービスを提供し続け、患者さんにご家族の安心と満足を提供し続けるためにも、職員が一丸となって、これからの医療介護福祉の構造改革に備える努力をしようではありませんか！



【東京足立病院 理事長 関 晶比古】

## 経 営 理 念

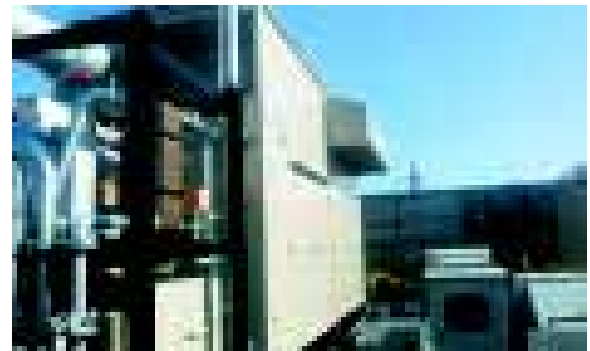
- 一、地域のニーズに応える医療と福祉の提供
- 一、安心と満足の医療と福祉の提供
- 一、職員の生活の保障

# 研 修 報 告

## 防犯・災害研修

防犯の研修では、実際に当院内で常備している護身用具の使用方法的紹介と、用具を使つての実技指導を受けました。また、徒手による護身術の実技指導では、実際にモデルをさせてもらい、構え・防御技を体験しました。実際にそれぞれ起きた時にどう対処していくか、日頃から考えておく事が大事だと感じました。

【老健2階 林 潤一郎】



3月17日（土）に院内の災害設備を見学しました。

今回の研修に参加してみて感じたことは、知っていると知らないとでは雲泥の差があるということ。防災の知識があり、当院の状況を知っているということで、自身は勿論、周りの方々も助かる可能性が高まって行くということを改めて認識しました。

【中央6階病棟 山田】

## 禁煙について

喫煙が体に及ぼす影響やニコチン依存について、様々なデメリットがある事を改めて学びました。自らの体調を管理していく上でも「吸いたい気持ちのコントロール法」を実践し、禁煙を心がけていかなければならないと考えますが、自分の気持ちとして禁煙に向けての意識が低く、喫煙によるデメリットを理解しつつも、禁煙に向けて踏み切れないところが正直な気持ちですが、いずれ禁煙出来るように意識を高めたいと考えています。

【中央2階病棟 小鎚洋子】





## 看護部自主勉強会

2008年より毎月2回17時45分より約1時間半程度、任意の参加で自主勉強会を行っています。内容は精神科疾患その他についてできるだけわかりやすい内容で勉強会を行っております。

様々な職種の方が参加しており、テーマによっては20人以上参加がある時もあります。参加することにポイントが加算され、参加賞をお渡ししています。

2011年12月20日に無事100回を迎えることが出来ました。参加者の中には、74回目の参加を迎えた職員もいます。最近は勉強会の資料を参考に各現場で勉強会を開いている職員もいます。

私たちは、医療従事者として、様々な知識・技術を持ち患者様に接していかなくてはなりません。その為にも日々自己研鑽に励み、ケアに役立てることが出来ればと考えております。皆様には、時間の許す限りぜひご参加いただき、看護部自主勉強会を大いに利用していただければ幸いです。

【看護部長 森はなこ】



## 職員寮紹介



TAGでは、若いスタッフや地方から就職される職員向けに、独身者用の寮を用意しています。本館6階に看護師寮、ハートパル花畑4階5階に有資格者寮があり、寮室は全てワンルームです。ユニットバス・トイレ・エアコン・ミニキッチン・冷蔵庫・洗濯機・乾燥機・ベッド・デスク・ミニチェストを完備しており、入寮と同時に整った生活環境を提供しています。



# 新人さん いらつしゃ〜い♪

## 【医局】

昨年10月に就職した濁川博子です。呼吸器内科を9年したところで、突然、教授から、感染症をやるようにと言われ、その後14年くらい、感染症中心の内科診療を行っていました。もともと、心と身体をつなぐような仕事がしたいと思っていましたので、今回、東京足立病院にご縁をいただき、とてもうれしく思っております。いまだに不慣れで、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、どうかよろしくお願ひいたします。



今年4月に入職した刑部です。生まれ育ちは東京なのですが、大学卒業後から今年の3月まで、ずっと長野県佐久市にある佐久総合病院というところに勤めていました。旨いそばと気持ちのよい温泉が沢山ある非常に楽しいところですので、そば好き温泉好きな方は是非、佐久地域に足を運んでみてください。昨年、子供が生まれたのを機にそろそろ東京に戻ってこようかなと考え始め、4月から引っ越してきたという経緯です。所変われば医療も変わる、地方型の医療と都市型の医療は色々と相違があり学ぶところが多いだろうと思っています。慣れない内は色々ご迷惑をおかけしてしまうかと思いますがよろしくお願ひいたします。



はじめまして。平成24年5月1日より東京足立病院で勤務させて頂いております吉田尚史です。中央4階病棟に配属になりました。

この病棟はスーパー救急病棟（精神科救急病棟）ということで、看護密度の濃い環境において根拠に基づいた効率的で質の高い医療を提供できるよう心がけます。慣れない点もあるかと存じますがどうかよろしくお願ひいたします。

因みに、これまで最も長い勤務先は都内総合病院精神科でした。趣味は自転車の街乗りといったところでしょうか。



昨年11月に医局に入職しました三井容子です。大学時代より慣れ親しんだ名古屋を、夫の転勤で離れる事になり、不安もありましたが、病院保育室のママさん、医局の秘書さんや先生方、病棟のスタッフの皆さんに温かくご支援いただき、あっという間に半年が過ぎました。現在、アルコール外来・病棟、そして新たに認知症病棟の担当をする事になりました。一般精神から少々離れる日々に、多少の寂しさもありますが、これからも一人ひとりの患者さまに、そしてスタッフの皆さんに誠実に対応できるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



### 【デイケア・医療福祉相談室】



デイケア科新人の高木と申します。

まだまだ目の前のことではいっぱいですが、素晴らしい先輩方からいろんなことを学びとり、病院職員として成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

趣味：山のぼり 出身地：東京都東村山市



(写真右) 4月より医療福祉相談室に入職しました田島早記と申します。主に急性期の病棟を担当させていただいております。好きな食べ物はオムライスで休みの日はディズニーランドへ行っています。よろしくお願いいたします。

(写真左) 4月より医療福祉相談室の外来部門を担当させて頂いております山崎恵子と申します。前職はデイサービスで相談員をさせていただいておりました。趣味は友達と食事や旅行に行ったりすることです。今はチャン・グンソクが大好きで時間が出来たら韓国に旅行に行きたいと思っています。





## 天才！木戸さんの 元気が出るレシピ！



イタリアンの定番「ペペロンチーノ」。にんにく、オリーブオイルと唐辛子という3要素だけのパスタ料理ですが、今回は夏野菜、ベーコンと合わせ夏場の体力のない時や食欲のない時でも食べやすいパスタを紹介します。

### 夏野菜とベーコンのペペロンチーノ (材料2人分)

1. 鍋にみじん切りにしたニンニク（2片）、赤唐辛子（2本）、オリーブオイル（大さじ2）を入れ弱火にかける。
2. ニンニクに少し色がついてきたらベーコン（20g）を炒めて香りを出し、野菜（茄子40g 赤・黄ピーマン各20g インゲン20g オクラ4本 アスパラガス20g トマト半個 ※インゲン・オクラ・アスパラは下茹でしておく）も一緒に炒める。塩、こしょう、パスタの茹で汁大さじ2杯とオリーブオイル大さじ2杯を入れて味を整えておく。
3. 茹であがったパスタ（200g）にトマトを入れ手早くからめてお皿に盛りつけて出来上がり！

【エームサービス 木戸晋一】



## さつき祭

今年も、TAG恒例の「さつき祭」を「元気よ 届け さつき祭」をテーマに開催しました。入院中や外来の患者様、作業所や家族会の方による舞台や展示のほか模擬店も開かれました。

今年は演芸や模擬店数が少なかったですが、患者様・利用者様・職員ともども、ご家族、地域の皆様と一緒にあって笑顔と共に楽しい時間を過ごせたのではないかと感じています。

【北病棟 看護師 丹野英明】





今回は40年以上の間精神科病院の中で造形サークルを主催し、患者さまとの交流を続けてこられた安彦講平先生の回想録をお送りします。ごゆっくりお楽しみください

「あなたは当院に務めるようになって40年以上になるんですね？」

「あなたにとってそもそもの動機は？その原点は？」

「いろいろご苦労もされたでしょう？得るものもあったでしょう？」

「あなたが試行錯誤されながらやってこられた～精神科病院内での芸術活動～その理念、実情は？これからどうなっていくんでしょうか？」

いろいろな人たちからいろんな風に問われてきた。

つい先日<造形サークル>で長年お付き合いしている患者さんから

「センセイはまだまだお若い。日野原先生のように百歳まで現役のままで私達の傍に居てくださいヨ」

同情とも励ましともつかない、こんな声も・・・。

（そうだ、ここはかけがえのない必要な場、と通い続け、表現し、交流・交歓している人たちがあってこそ<造形サークル>の活動とその関係が創り出され、草創期から今日まで、毎日毎回、協働の営みがつづけられて来た。私こそ支えられてきたのだ）

それぞれの問いはその人その時の関心、思い入れ、好奇心、あるいは疑念、難題を込めて差し向けられてくるのだ。百人から問われれば百通りの答えがある、と思う。



分け入っても分け入っても青い山

これは俳人・種田山山頭火が高千穂山など九州の山村を辿る旅路で詠んだ句だ。酒浸り、貧困、放浪に明け暮れ、昭和15年、58歳で亡くなるまで、苦難苦行の生涯のなかで、多くの前衛的な秀句を詠み続けた。この句は簡潔な語の中に人生の、天然自然の悠久な時間空間が詠みこまれている、と思う。山頭火の苦の実人生、文学活動と私の現況とは比べようもない、が、この句は何故か、どこかしら、私のこれまでの遍歴の道程、今ここに在る私に、そしてこれから辿るであろう明日の私に通底し、暗号し、象徴しているように思えてくるのだ。

折々に読み返し、頷き、私は一人口ずさむ。まづ「分け入っても・・・」の冒頭の発句。

私は60年安保闘争など日本中が、世界も激動の時代に学生生活を了えた。しかし、定職にも就かず“社会人永久一兵卒”を自称し、その日暮らしの生活を送っていた。友人が足立区の精神病院でアルバイトをしている、と知り、何はともあれ精神病院の中に行き、患者さんたちと出会い、生の声を聞きたい、と思い決めて、当時住んでいた渋谷・代々木上原から電車を乗り継ぎ、都心を縦断し、東京の北東端、足立区保木間という所にある東京足立病院を訪ねた。

1968年の春。小川を隔てた向こうは埼玉。住宅、工場が散在する野っばら地、枯れ切ったセイタカアワダチ草の丈高い草むら越しに一群の建物が見えた。ブロック二階建ての窓という窓には鉄格子が嵌め込まれ、三階建ての屋上には金網のフェンスが張り巡らされていた。”社会から遠ざけられた隔離収容の施設”大都会の奥の院。まさに、私にとって未知の、未開の地に分け入った、という最初のあの時の印象が今も鮮明に蘇る。

創立院長の関信男先生との面談で、芸術系の領域の関わりを続けていこうと思う。ゴッホ、ムンクも重篤な精神的病を抱えながら、生涯、芸術活動を続けていった。自らを支えるための、受苦受難＝パッションから生み出された作品は生命の深遠、無限の可能性、そしてその時代、社



会の問題を逆照射し、後世の人々に多大な影響を与えてきた。夏目漱石も宮沢賢治も生涯、心身の病いをかかえ生きる心の杖として鏡として表現しつづけた。その結晶体は世代、時代、国境を越えて共鳴・影響を与えてきた。心を病むことはただネガティブな、マイナスな極面としてだけではなく、人間の生命の深遠、無限の可能性、そして、その時代、社会の光と影を体現している、と言えるのではないか。心に病いをかかえている人たちと直に触れあい、生の声を聞きたい、と伝えた。

関院長は「それもここにアリかな」と、患者でもない、医療者でもない、私の「入院」を即座に認めてくれた。以来、私は精神医学・医療の資格も専門の知識も無い、いわば鎧兜も着けず、素手丸腰のままで週二日通いはじめた。南男子病棟の手伝いをしながら、手の空いた時間、各病棟を訪れてはよもやま話をしたりしながら過ごしていた。そのうちに、私の来る日は「自由に絵を描いたり、文章を綴ったりしながらこもごもに話し合うことのできる日」ということが患者さん同士の間で伝わり、広まるようになっていった。起床後、それぞれの布団を押入れに仕舞い、寝部屋から居間になった畳部屋に卓袱台を並べ、あちこちの病室から集まってきた患者さんたちと絵を描いたり、談話したりして過ごしていた。

そのうちに、他の病棟でもやりたい、やってはどうかという自然発生的な広がりが出ていき、一日目の午前男子の一階の閉鎖病棟、午後は二階の女子病棟で、二日目の午前高齢の人たち中心の病棟、午後は半開放の病棟へ、といわば、半日づつの興業をうって歩く大道芸人のような日々を続けていった。

今でこそ「アート・セラピー」「芸術療法」が新しい、ユニークな療法として注目、関心が寄せられ、さまざまな理論や技法の研究・開発が行われるようになり、多くの病院や施設で精神療法やデイケアの一環として採り入れられるようになってきた。はじめ、患者さんと絵を描いたり、その絵を前に語り合ったりするんだ、ということ



「絵？エッ！」といい、「精神病の患者に絵が描けるのか？」「わけの分からない絵を描かせたりするともっと混乱するんじゃないか？」現場の医療者の反応だった。そういう時代だった。しかし、私達が指向し、試行してきたことは、いわゆる「教育」や「治療」のための、上から課せられ、外から評価、解釈されるような道具・手段としての描画ではない。それぞれが自由に描き、身をもった体験を通して、もうひとつの自分と出会い、それぞれの内に潜在する個性、資質や力、可能性を引き出す、自らを”癒し”、支えていく、そのような共働の営みの場である。

精神科病院のうちで自由な表現をしていくためには、その地盤、土壌作りから始めなければならなかった。場を作り、関係を造るという、もうひとつの開拓・開墾の土壌を作り、耕作＝カルチャーが同時に進められていった。手を休めたり、気を抜いたりすればたちまち雑草がはびこり、また、また、掘り返し、土壌を均していかなければならない。思いがけない難関と出会いながら、台本のない一回性の、終わりの無いオムニバスドラマの連続。何処までも何時までも終わりのない「分け入っても分け入っても青い山」への旅、身をもった「臨生」の現場での体験が私自身の心身を鍛練し、心の糧となっていった、と思う。(3)

**皆様、いかがでしたでしょうか。静かに、しかしながら絶えることなく積み重ねられてきた声なき声の響きに私たちは今だからこそ真摯に耳を傾けなければいけないのかもしれないかもしれません。**

**安彦先生、貴重なお話をありがとうございました！**

**(編集 医療福祉相談室 奥村 道)**

## 外来のお知らせ



### 診療時間

午前 9:00~11:30 (午前初診受付は11:00までです)  
 午後 1:30~3:00 夜間 5:00~7:30

### 診療科目と曜日

		月	火	水	木	金	土
精神科	AM	○	○	○	○	○	○
	PM	○	○	○	○	○	○
	夜間	—	○	—	○	—	—
アルコール専門外来	AM	○	○	○	○	○	—
	PM	—	—	—	—	—	—
内科	AM	○	○	○	○	○	○
	PM	—	—	—	—	—	—
老人外来	AM	○	○	○	○	○	○
	PM	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション科	AM	○	○	○	○	—	○
	PM	○	○	—	—	—	—
皮膚科	AM	○	—	—	—	○	—
	PM	—	—	○	—	—	—
歯科	AM	—	—	—	—	—	—
	PM	○	—	○	○	—	—

◎老人外来の月・火・水・金・土は特に物忘れの方の診察を行っております。

◎内視鏡（胃カメラ）は火曜・水曜に行っております（予約制）。

◎グループ活動としてはデイケアをはじめ、デイナイトケアやご家族の会、当事者の会などありますので、詳しくは職員にお尋ねください。

◎老人保健施設や訪問看護・介護ステーション、在宅介護支援センターも併設しております。ご利用のご希望の場合はお声かけください。

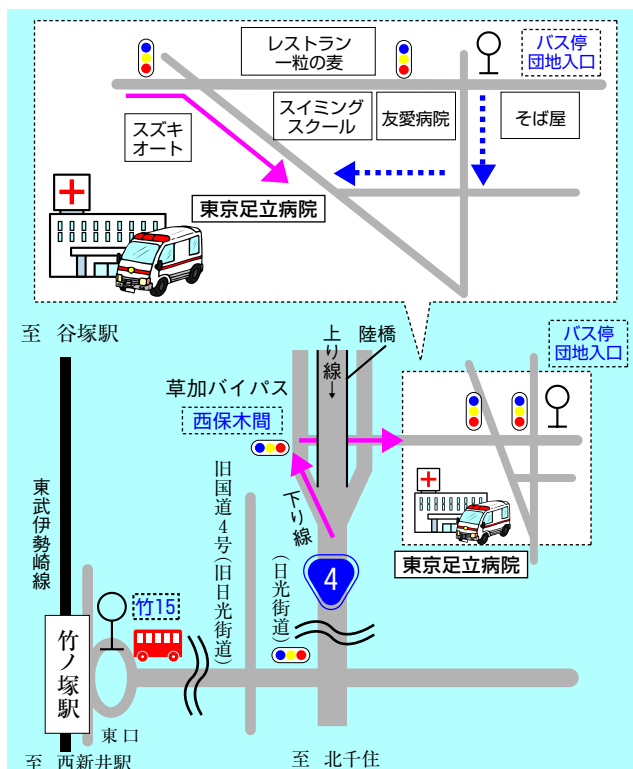
### 交通のご案内

#### [電車・バスでご来院の方]

◆東武伊勢崎線竹ノ塚駅東口より東武バス花畑団地行き（竹15）にて「団地入り口」下車徒歩2分。（タクシーの場合、谷塚駅からの方が短距離です。）

#### [お車でご来院の方]

◆国道4号線（日光街道）の西保木間の信号を花畑団地方面に曲がり、1つ目の信号を右折して下さい。



#### 医療法人財団厚生協会 東京足立病院

〒121-0064 足立区保木間5-23-20  
 TEL. 03-3883-6331  
 FAX. 03-3884-7036  
 ホームページ <http://homepage1.nifty.com/TAG/>